

令和5年度事業報告書

特定非営利活動法人 WE21 ジャパンこうほく

1 事業の成果

2023年度は5月からコロナが5類に移行した後、運営するショップにコロナ禍前の賑わいが戻り、地域の方々とボランティアとの交流も増えました。

貧困なくそうキャンペーンで取り組んだ「沖縄を知ろう」の学習会を3回開催し、沖縄チームのメンバーが視察に行き、沖縄の貧困と若年出産に取り組む2つの支援先を決定することができました。

能登半島地震で甚大な被害を受けた方々に向けて、募金を行いました。

2 事業内容（特定非営利活動に係る事業）

I. 資源のリユース・リサイクルを推進する事業

1) ショップ事業

(1) 大倉山店

- ・内 容 リユース・チャリティショップ運営
- ・日 時 通年 営業日数 279日
- ・場 所 横浜市港北区大豆戸町60-1
- ・従事者人員 ショップマネージャー 2人
ボランティアスタッフと運営委員 25人(延べ841人)
- ・受益対象者 市民 主に港北区南部・鶴見区
- ・寄付件数 2,075件
- ・事業高 7,248,124円 (フェアトレード品売り上げ213,490円含)
- ・支出額 6,960,096円 (フェア後レード品仕入れ127,495円含)

(2) 日吉店

- ・内 容 リユース・チャリティショップ運営
- ・日 時 通年 営業日数 280日
- ・場 所 横浜市港北区大豆戸町2-1 2-7
- ・従事者人員 ショップマネージャー2人
ボランティアスタッフと運営委員 34人(延べ1,310人)
- ・受益対象者 市民 主に港北区北部・川崎市
- ・寄付件数 2,120件
- ・事業高 7,515,229円
- ・支出額 6,664,373円

2) 環境活動

お買物でのエコバッグ利用が定着し、袋にいれないまままでのお渡しが増えました。

羽毛製品の回収は、羽毛の再生循環リサイクルを目指すグリーンダウンプロジェクトの主旨に賛同し進めました。羽毛布団だけでなく寄付品のダウンコートなどの衣類も販売に適さない品を回収に加えました。

販売に適さない、また販売できなかった衣類の一部を引き続きリメイク活動で生かしました。

資源の有効利用はガラス・陶器のリサイクルを毎月回収に出して廃棄せずに役立てられました。

	大倉山店(前年比)	日吉店(前年比)	備考
ファイバー(衣類・バッグ)リサイクル	420 袋(92.7%)	190 袋(106.7%)	販売できなかった衣類は衣類・反毛・糸に生かされました
ガラス・陶器のリサイクル	ガラス 9 箱・陶器 15 箱 (114.2%)	ガラス 5 箱・陶器 17 箱 (110.0%)	毎月1回の回収で再生ガラスや道路基材に再利用されました
羽毛布団のリサイクル	羽毛布団(ダウンコート含) 10 袋 (125.0%)	羽毛布団(ダウンコート含) 5 袋 (71.4%)	再生羽毛として利用されました。
可燃物・不燃物の廃棄費用	80,080 円(118.1%)	44,814 円(95.2%)	大倉山店では店内整理を進めたため廃棄量が増えました。

3) リメイク活動

ボランティアで構成される3つのリメイクチームと連携して、販売できなかった寄付品等を利用したリメイク活動を行いました。新型コロナ第5類以降に伴い、リメイク教室を再開しました。11月の「菊名ご近所文化祭」と1月のWE21 ジャパン主催の「着物・リメイクフェア」に参加しリメイク品販売とWE21 ジャパンこうほくの活動アピールができました。

4) 広報活動

(1) 会報

会報No.134 を7月に、No.135 を12月に発行し会員以外にも両店で配布しました。No.135 はチョコ募金キャンペーンを掲載し、生活クラブ生協菊名・港北コモンズ組合員に組込み配布、またチョコ募金協力の団体・個人にも配布しました。

(2) 活動だより

会員に向けて活動だより No.9 を3月に発行し、情報の共有を行いました。総会のお知らせ、ご寄付の御礼についてお知らせしました。また沖縄視察のホットな情報や能登地震緊急募金継続のお願いもお知らせしました。

(3) ホームページの運営

WE ショップこうほく両店の営業案内、両店を拠点として開催されるキャンペーンやセールのご案内、支援活動の報告、緊急に行った活動の報告などを掲載し、広く知らせました。大倉山店・日吉店それぞれの情報掲載ページや、両店へのアクセス、ご寄付受付のページが多く閲覧されました。

(4) フェイスブック・インスタグラム・ブログの運営

- ・フェイスブック 昨年度より「投稿数」「いいね！」が増えました。
- ・インスタグラム 両店とも継続的に活用しています。情報発信機能だけでなく、担当するボランティアのモチベーション維持高揚にも大きな役割を果たしました。
- ・ブログ 報告会の様子など、より詳細な情報の発信に活用しました。

(5) 掲示物

両店内では民際協力活動の報告、店外では立看板を含め通知や募集の案内をしました。

- II. アジア等における市民、とりわけ女性の生活の向上と自立のための活動を支援する事業（民際協力事業）
収益からの支援額については、支援先団体からの切実な情報を受け、運営委員会で支援検討会を開催し、決定しました。紛争や災害で困難な状況にある人たちへの緊急支援の検討もしました。

2023年度総支援額 1,632,124円

1) 海外支援 合計 810,333円（収益より 463,220円、募金・寄付 347,113円）

(1) 有機農業の発展を通じたゆたかで幸福なコミュニティの構築

- ・実施団体 緑の芽有機農園学校
- ・プロジェクトの対象となる地域及び人々
カンボジアコンポントム州・タケオ州・カンポット州・コンポンチュナン州・ポーサット州の有機農家
- ・支援額 300,000円
- ・プロジェクトの概要
有機農家・小売業者・消費者を繋ぎ、小規模農家の生活を向上させるプロジェクトです。2023年度は、グループミーティングとトレーニングを20回、農家への個別訪問を30回行い、認証種子を使用した野外実演などの研修を行いました。土壌と栄養管理の改善に関心を持つ農家が増え、コメの収穫量を30%増やすことができました。

(2) チョコ募金キャンペーンを通じたイラク・シリア・福島支援

- ・実施団体 NPO 法人 JIM-NET（日本イラク医療支援ネットワーク）
- ・プロジェクトの対象となる地域及び人々
イラクにおける小児がんの子どもたち、シリア難民・イラク国内避難民、福島の子どもたち
- ・支援額 372,050円（チョコ募金 302,500円、収益金等からの支援 50,000円、店頭募金 19,550円）
- ・プロジェクトの概要
イラクの4つの病院への医薬品、医療器材の支援や人材育成による小児がんの子どもたちへの医療支援、JIM-NETハウス（小児がん総合支援施設）の運営による病児学習支援、貧困世帯への経済支援、病児の親御さんへの支援相談、子どもたちへのイベント実施など、またイラクに逃れてきたシリア難民妊産婦・子ども支援、イラク難民キャンプでの支援、福島の子どもたちを放射能から守る活動への支援を行いました。JIM-NETハウスはイラク北部アルビルのナナカリ病院内にあり、ジムネット現地スタッフやボランティアの先生により、病児のための様々な活動が行われています。病気の回復とともに学力の指導をして復学支援に役立てています。また、病児の家族が宿泊できる設備があり、遠方から治療に来る病児家族が休めるようになっています。

(3) ミャンマー地雷犠牲者への義足支援

- ・実施団体 NPO 法人地雷廃絶日本キャンペーン（Japan Campaign to Ban Landmines）
- ・プロジェクトの対象となる地域及び人々
ミャンマー、カヤ州での地雷犠牲者
- ・支援額 100,000円
- ・プロジェクトの概要
JCBLは2017年から義肢支援を実施しており、これまでに200名の地雷犠牲者に義足を提供してきましたが、政情不安の中、現地パートナーKNHWO(Karenni National Health Worker Organization)の工房が閉鎖を余儀なくされ、工房のワーカーとの連絡も途絶えました。その後、クーデター以降に創設された医療関係者からなる新たなグループ DOVE から支援要請があり、JCBLは2度現地に渡航し、クラウドファンディングで得た活動資金を現地のグループとコーディネータに直接届け状況を聴取しました。

(4) トルコ・シリア地震緊急支援

- ・実施団体 特定非営利活動法人パルシク（PARCIC）
- ・支援額 38,283円（収益金からの支援額 13,220円、店頭募金 25,063円）
シリア難民支援をしている日本のNGO。シリアの難民とトルコ在住のシリア難民に医療品等の支援をしています。

2) 国内支援 合計 821,791 円 (収益より 730,164 円、募金・寄付 91,627 円)

(1) 寿町等生活困窮者自立支援

- ・実施団体 寿炊き出しの会
- ・プロジェクトの対象となる地域及び人々 寿町と市内近隣居住者・路上生活者、並びに川崎市桜本近郊の路上生活者 (新型コロナウイルス感染拡大により職住等の行き場を失った人々を含む)
- ・支援額 39,792 円 (収益より 30,000 円、店頭募金 9,792 円)

・プロジェクトの概要

横浜市中区寿町地域並びに近隣の生活困窮者の人々 (障がい者、高齢者、生活保護費受給者、路上生活者等を対象に「寿地区センター」「寿炊き出しの会」等地域の支援団体が連携し合って炊き出し・バザー開催、訪問活動、医療・法律・生活・労働の相談活動を行っています。特別給付金受領や生活保護申請手続きへのサポートも行われました。川崎市桜本地区で路上生活者に炊き出し等の支援活動をしている「桜本野宿者支援会」へ男性衣類、毛布、マスク等を寄附しました。活動に参加しているこうほくの会員&ボランティアから現状等を聞き、寄付品を持って訪問をしました。

(2) 関内周辺路上生活者支援

- ・実施団体 関内周辺夜回りの会
- ・プロジェクトの対象となる地域及び人々 横浜市中区関内周辺の路上生活者
- ・支援額 134,794 円 (収益より 120,000 円、店頭募金 14,794 円)

・プロジェクトの概要

当該地域内の路上生活者へ医薬品と野菜や卵を届ける活動。月 2-3 回の頻度で見回りを続けています。

(3) 放射能測定と医療活動支援

- ・実施団体 認定 NPO 法人 いわき放射能市民測定室 たらちね
- ・プロジェクトの対象となる地域及び人々 いわき市及び原発事故被災地住民
- ・支援額 148,713 円 (収益より 140,164 円、店頭募金 8,549 円)

・プロジェクトの概要

たらちねでは、①放射能測定②たらちねクリニック③出張甲状腺検診プロジェクト④こころのケア⑤歴史探求プロジェクト⑥保養プロジェクト を継続しており、毎年詳しい報告書を出しています。2023 年 8 月からの処理水海洋放出を受け、海水放射能測定を続けています。また、甲状腺検診のための超音波エコー検診機器を新しくするために寄付を募ったので、こうほくも応じました。

(4) 子どもの生活支援

- ・実施団体 特定非営利活動法人子どもセンターてんぼ
- ・プロジェクトの対象となる地域及び人々 家庭内に居場所を持つことが困難な家庭の子ども達
- ・支援額：店頭募金 5,594 円 (11 月 1 日～11 月末日)

・プロジェクトの概要

てんぼは、居場所のない 10 代後半の子どもの電話相談事業、シェルター事業、自立援助ホーム事業 (みずきの家) の 3 事業を運営し、緊急避難先や共同生活の場を確保し、子ども自身の選択による自立を支援しています。2020 年度より法人会員となり、2023 年度も法人会員の立場を継続しました。

(5) 核兵器廃絶を進める活動支援

- ・実施団体 実施団体：核兵器廃絶日本 NGO 連絡会
- ・プロジェクトの対象となる地域及び人々 日本、日本人
- ・支援額 30,000 円

・プロジェクトの概要

核兵器廃絶の世論を高め、日本が核兵器禁止条約に参加することを目標にしています。2024 年 4 月から始まる「核兵器をなくす日本キャンペーン」発足のために、支援を行いました。

(6) 能登半島沖地震緊急支援

- ・実施団体 特定非営利活動法人パルシック (PARCIC)
- ・プロジェクトの対象となる地域及び人々 被災地域住民
- ・支援額：店頭募金 52,898 円

・プロジェクトの概要

能登町を拠点に避難所や在宅被災者への支援物資の配布や炊き出し実施を支援しました。

- (7) 福島原発かながわ訴訟支援
- ・実施団体 福島原発かながわ訴訟を支援する会
 - ・プロジェクトの対象となる地域及び人々 神奈川県内に避難している東日本大震災被災者
 - ・支援額 40,000 円
 - ・プロジェクトの概要
 こうほくは、上記法人が協賛している「3.10 東日本大震災かながわ追悼の夕べ」に協賛・参加してきており、神奈川県内に避難している「福島原発かながわ訴訟原告団」が 2013 年に起こした集団訴訟にも着目していました。2023 年 1 月に東京高裁の判決が出ましたが、2 月 9 日に最高裁へ上告しました。上記会の法人会員にもなって、活動を支援しました。
- (8) 3.10 東日本大震災かながわ追悼の夕べ支援
- ・実施団体 3.10 東日本大震災かながわ追悼の夕べ
 - ・プロジェクトの対象となる地域及び人々 神奈川県内の東日本大震災避難者および神奈川県民
 - ・支援額 10,000 円
 - ・プロジェクトの概要
 神奈川に避難してきた人々と、東北につながるとうする神奈川の人々が共に追悼の場をもつための活動です。
- (9) DV 等被害女性自立支援
- ・実施団体 特定非営利活動法人 共同の家プラン
 - ・プロジェクトの対象となる地域及び人々 暴行被害などを受けた女性等
 - ・支援額 200,000 円
 - ・プロジェクトの概要
 暴行被害を受けた女性などに対し、緊急一時保護の後、中長期に滞在できる場所を提供し、被害女性たちが共同生活をしながら心身を回復させ、新しい生活に向け精神的・経済的に自立できるようサポートする活動です。
- (10) 粉ミルク配布支援
- ・実施団体 一般社団法人 共育ステーションつむぎ
 - ・プロジェクトの対象となる地域及び人々 沖縄県内の乳幼児をもつ生活貧困世帯
 - ・支援額 100,000 円
 - ・プロジェクトの概要
 沖縄で、赤ちゃんの生まれた生活貧困世帯にベビーミルクを配布する活動です。行政や社会福祉協議会、関係団体と連携を取り、沖縄のどこに生まれてもベビーミルク支援が受けられる体制を整え、活動しています。
- (11) 若年妊産婦支援
- ・実施団体 一般社団法人 ある
 - ・プロジェクトの対象となる地域及び人々 沖縄県内の若年妊産婦
 - ・支援額 30,000 円
 - ・プロジェクトの概要
 沖縄で、10 代の妊産婦のための子育て・自立支援をしています。妊娠出産時だけでなく、若い母親同士の交流支援なども行っています。
- (12) 記録映画制作支援
- ・実施団体 沖縄記録映画製作を応援する会
 - ・プロジェクトの対象となる地域及び人々 日本および日本人、とりわけ沖縄県および沖縄県民
 - ・支援額 30,000 円
 - ・プロジェクトの概要
 有事に対する抑止力として政府の進める防衛対策が実施されつつある沖縄県の様子を記録映画として製作し広く知らせるプロジェクトです。
- 3) フェアトレード品・震災復興支援品の販売による支援
- 生姜パウダー、コーヒー、の 2 品目を取扱い、生産者グループの生計向上に寄与しました。
- 年間仕入額 計 240,819 円
- ・森育ちのしょうがパウダー
 生産者：フィリピン・ベンゲット州住民組織ウバパス・ダイヨコン・ランパダ
 仕入額 109,215 円（昨年比 125%）

- ・シサムコーヒー 生産者：フィリピン・CGN（コーディリエラ・グリーン・ネットワーク）
仕入額 131,604 円（昨年比 101%）
「3.11 を忘れないキャンペーン」で震災被災地の海産物を仕入れました。
- ・海産物 生産者：宮城県気仙沼市ムラカミ
仕入れ額 127,148 円

4) キャンペーン

(1) 貧困なくそうキャンペーン 期間：10月1日～10月30日

「沖縄を知ろう！～沖縄の問題は日本全体の問題！～」をスローガンに、沖縄が抱えている様々な問題に目を向けよう取り組みました。まずは自分たちも諸問題を知ることから始めようとドキュメンタリー映画「ちむぐりさ菜の花の沖縄日記」の上映学習会を持ちキャンペーンに臨みました。店内では、沖縄の貧困率、シングルマザー率、低賃金、基地問題等の問題をポスター等により掲示して来店客に伝えました。

(2) チョコ募金キャンペーン 期間：12月1日～2月10日

JIM-NET のイラク小児がん支援に賛同して、地域の皆さまに協力いただき、チョコ募金で病院や病気の子どもたちに医薬品を届ける活動に参加しました。イラクやシリアの子どもたちへの医療支援の他、がんの子どもたちと家族のための総合支援施設「JIM-NET ハウス」の運営、院内学級の実施、イラク・シリアの難民キャンプに暮らす人々への医療支援、福島の子どもたちを放射能から守る保養や検診の助成（福島基金）などにも使われました。

(3) 「3.11 を忘れない」キャンペーン 期間：3月中

東日本大震災・福島第一原発事故から 13 年経ち、ともすると風化しかねない「3.11 の課題」について私たちが向き合っていく重要性を考えました。3 月は特に 3.11 について思いを馳せる月間として、放射能汚染と隣り合う生活があること、故郷に帰れない避難者の戦い等を店頭で発信しました。

継続支援している「いわき放射能市民測定室～たらちね～」の活動の紹介、「3.10 東日本大震災かながわ追悼の夕べ」の集会に参加し、新たに「福島原発かながわ訴訟を支援する会～ふくかな～」の活動に賛賛し会員になりました。

5) 民際協力事業地訪問

川崎の路上生活者に食料・衣類を配布している NPO 法人ボランティアユニバースに 6/10 日吉店から預かった衣類をもってユニバースの活動地・川崎の河川敷近く（港町）に 2 名が訪問しました。

また、2/18～20 チーム 5 名が沖縄で 2 泊 3 日の視察を実施しました。那覇市社協スタッフや市民活動団体からの紹介を受けて、活動資金の足りない団体を訪問してその活動をヒアリングし、2 団体を支援していくこととしました。

6) 学習会・報告会の開催

WE21 ジャパンこうほく主催・タイトル		参加者
9/14	「沖縄を知ろう」ちむぐりさ菜の花沖縄日記 視聴と話(下島三重子さん)	22 名
9/22	「沖縄を知ろう」 第2弾 日吉店「戦雲」スピンオフ視聴	6 名
9/25	「沖縄を知ろう」 第2弾 大倉山店「戦雲」スピンオフ視聴	6 名
1/18	JIM-NET 報告会 斎藤亮平さん	28 名

他団体主催		参加者
4/30	「KNOW NUKES FORUM」 主催:KNT、会場:HYPERMIX 門前仲町(江東区)	2 名
9/24	WE 講座「日本のかたちが変わる！～他国への武器輸出～」 主催:WE21ジャパン	2 名
1/12	JIM-NET オンライン報告会 主催:JIM-NET	1 名
1/29	高橋悠太さん報告会 主催:WE21ジャパン平和政策チーム、会場:かながわ県民センター	2 名
2/25	JIM-NET 報告会 主催:WE21ジャパンあおば	3 名
3/9	「3.11 を忘れない」たらちね報告と紙芝居作家 福本英伸氏の話 主催: WE21ジャパンあおば	1 名

Ⅲ. 組織活動

1) 組織運営

(1) 会員 期首 61名 期末 62名 (入会 2名、退会 1名) 目標 70人

(2) 運営委員会の開催

月1回の運営委員会を開催し(臨時含め計14回)、総会で決議された法人年間事業を推進しました。

(3) ボランティア体制

ボランティア数 59名 大倉山店 25名(新規1名)、日吉店 34名(新規3名)

ボランティアミーティング 大倉山店は3月6日、日吉店は2月22日に開催しました。

参加型運営をすすめるために、日吉店とともに大倉山店でもボランティア参加の領域を広げ、ショップの開閉責任、チラシ有償配布、など積極的にショップ作業への参加を進めました。

(4) 事務局体制

事務局長 1名 マネージャー 大倉山店 2名、日吉店 2名

事務局会議を1回5月に開催しました。2022年度末からの営業時間短縮に関する影響や参加型運営について話し合いました。

(5) その他

- ・ワーカーズコレクティブ協会からの依頼により、就労準備実習生を日吉店で受け入れて週1回サポートしました。(4月～11月計39回)
- ・認定NPO法人として、より高い公益性を追求し、情報公開・適正な運営に努めました。
- ・県指定NPO法人の継続をしました。(2024年1月1日から2028年12月31日まで)
- ・活動に賛同し、継続して以下の団体の団体会員になりました。
認定NPO法人WE21 ジャパン、NPO法人JIMNET、いわき放射能測定室たらちね、認定NPO法人子どもセンターてんぼ、NPO法人ピース・デポ、社会福祉法人横浜市港北区社会福祉協議会、港北区災害ボランティア連絡会、福島原発かながわ訴訟を支援する会
- ・認定NPO法人として積極的に寄付金を募ることを掲げ、2名の方と3団体から97,904円の寄付をいただきました。

2) WE21 ジャパングループおよび地域との連携

- ・WE21 ジャパングループのメンバーとして連携し活動しました。(グループ会議やイベント参加など)
- ・地域イベント5月21日「らくらく市」11月25日～12月3日「菊名ご近所文化祭」に参加しました。
- ・地域団体にチョコ募金を呼びかけ、3団体の協力を得ることができました。
(こどもの本のみせともだち、福祉クラブきらり港北、社会福祉法人かれん、)
- ・港北区災害ボランティア連絡会のメンバーとして活動しました。

3) その他

- ・新型コロナが5月以降5類移行となり緩やかに感染対策を解除しました。
- ・平和な社会づくりについて考えました。日本のNGOによる「イスラエル・パレスチナにおける武力行使の即時停止への働きかけを求める」声明文へ賛同(10/16)、NGO,人道支援団体、医療従事者、宗教指導者等の「パレスチナ・ガザ地区での停戦を訴える共同記者会見」に賛同しました(12/23)。
- ・危機管理と防災の取り組みとして、WEショップスタッフ登録者全員を区社協のボランティア活動保険に加入登録し事故や災害に備えました。大倉山店では消防署の指導により設備点検が行われました。日吉店ではボランティアミーティングで消火器や防犯ブザーの位置の確認をしました。